

知的資産経営報告書

2009



スイコー株式会社

目 次

1. 経営者からみなさまへ	3
2. 経営哲学	4
3. 事業概要	
(1) 事業内容	6
(2) 事業をめぐる環境	10
4. これまでの事業展開	
(1) これまでの事業の歩み	11
(2) これまでの事業実績	17
5. 当社を支える知的資産＝人間力	
知的資産－①「営業の人間力」	18
知的資産－②「製造、技術、開発の人間力」	21
知的資産－③「人間力の教育」	24
6. これからの事業展開	
(1) 今後の経営方針・ビジョン	26
(2) 今後の取り組み	26
(3) 知的資産活用マップ	26
(4) 今後の事業計画	26
7. 会社概要	27
8. 問い合わせ先	27
9. 知的資産経営報告書とは	28

1. 経営者からみなさまへ

皆様方には平素より私どもの製品をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

当社は1963年(昭和38年)に設立され、以降40年に渡りポリエチレン回転成形一筋に歩んでまいりました。

回転成形の特徴である大型製品ができるというメリットを生かすべく全国(兵庫、滋賀、熊本、東北、北海道)に生産拠点をづくり、お客様のニーズに対応できる体制を整備しております。

また、品質面でも、1999年にISO9001の認証を取得し、高品質、低コストの製品造りに取り組んでおります。

また2007年にはISO14001の認証を取得し、地球環境との調和を目指し、環境汚染防止及び資源の有効活用に取り組むと共に、あらゆる事業活動の保全を配慮した活動を行ないます。

今後もお客様と共に考えていくことで新しい発見をし、技術の向上に役立ててまいります。

この知的資産経営報告書は、平成19年3月に経済産業省から公表された「中小企業のための知的資産経営マニュアル」に従って、当社の見えざる経営資源、そして強みを活かした今後の事業展開、成長可能性を表現しています。本報告書を通じて、少しでも多くの皆様にご理解いただければ幸いです。

引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、お願い申し上げます。

2009年3月

スイコー株式会社

代表取締役 横山 隆人



経営者から
みなさまへ

経営
哲学

事業
概要

事業展開
これまでの

知的資産
当社を支える

事業展開
これからの

会社概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

2. 経営哲学

企 業 理 念

常にお客様の視点に立ち、技術の向上に努め、“さらなる満足”を提供し、“地域社会”と“環境に貢献する。

品 質 方 針

- I 品質マネジメントシステムの要求事項を満たし、その有効性を継続的に改善し、常に最高の製品をお客さんに提供する。
- II 品質目標を設定し、各部門での活動を徹底し、継続的改善に積極的に取り組む。

環 境 方 針

当社は、プラスチック回転成形品の設計、開発及び製造に係わる事業活動を通じ、地球環境との調和を目指し、“環境汚染予防及び資源の有効活用“に取り組むと共に、あらゆる事業活動を通して地球環境の保全を配慮した活動を行います。

- I 環境保全活動を推進するために、環境マネジメントシステムを構築し、環境保全の向上を図ります。
- II 事業活動によって環境に与える影響を認識し、環境目的、環境目標を定め、定期的な見直しを行い、継続的に改善し、「汚染の予防」と「環境負荷」「省エネルギー」の低減を図ります。
- III 環境上の関連する法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- IV 全従業員に対し、環境方針を周知徹底し、計画的に環境教育を実施して環境保全意識の向上を図ります。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

事業概要

これまでの
事業展開

当社を支える
知的資産

これからの
事業展開

会社概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

コンプライアンスの基本方針

当社は、次の基本方針に基づき、コンプライアンスに積極的に取り組む。

① 法令遵守

(法令と社会ルールを守り、健全な企業活動を遂行します)

② 品質サービス

(最高の製品、サービスを提供し、社会の発展に貢献します)

③ 環境保全

(環境の保全に努め、安全で安心な地球空間の実現を目指します)

④ 人権擁護

(互いの人権を尊重し、良好な職場環境を構築します)

⑤ 情報開示

(会社の諸規定を守り、適正な開示を行い、広く社会に寄与します)

コンプライアンスの行動基準

基本方針に基づきコンプライアンスを実現する為に、当社では役職員に対し7つの行動基準を定めています。社会的規範を遵守するとともに節度をもった行動が求められています。

- I 事業活動については法令及び社内規則等を守り、社会ルールに基づき、良識を持って誠実に行動します。
- II 取引先・競争会社関係については対等の立場で、自由な競争を実現するために、独占禁止法を守り公正な事業活動を展開します。
- III ステークホルダーとの関係についてはそれぞれの立場を尊重するとともに企業情報を公開し、当社の製品を通じて、地域社会、また広く世界にも寄与できるよう努力します。
- IV 社会との関係については政治・行政とは健全かつ公正な関係を保ち環境に関しては地球規模の視点を忘れず、環境保全に努めます。反社会勢力等とは一切関係を持たず、地域社会に貢献する会社を目指します。
- V 情報管理については、守るべき機密情報は、厳重に管理し、正当な理由なく他に開示・提供・漏洩しません。又関係法令に従い、適切に管理、使用します。
- VI 会社資産管理については関係法令と会社の規則に従って適正な会計処理を行い、資産を保護します。リスク管理による取引先の与信管理・債務管理を徹底し、違法行為・不正行為を防止します。
- VII 役員・従業員との関係については個人の人格を尊重し、会社は役員・従業員が存分に力を振るい、夢を追い、自己実現を提供するとともに、会社自身も企業価値を増大し、魅力ある会社に成長することを目指します。

3. 事業概要

(1) 事業内容

1) 規格品

工業関係

- MC型タンク : 紫外線をシャットアウト、デリケートな内容液を守ります
 UL型タンク : 補強枠を撤廃！剛性度に優れた製品です
 CT型タンク : 設置場所を選ばないスリムなタンク
 HT型タンク : 完全液出しタイプで、タンク内清掃後の残液が残らないタンク
 MH型タンク : 開放円筒型容器、様々な用途に対応
 薬注タンク : 優れた耐薬品性と丈夫な構造
 その他 : 反応槽・ノッチタンク・MDドラム・KCドラム・K型容器・M型容器・
 SLTタンク・スカットタンク・クリーンタンク・ホームローリー・ポリタル



MC型タンク



HT型タンク



薬注タンク

農業・水産関係

- SLTタンク : 耐衝撃性・耐久性に優れた運搬用タンク
 スカットタンク : 完全液出しタイプで、耐衝撃性・耐久性に優れた運搬用タンク
 活魚タンク : 耐衝撃性に優れ、腐食がなく、淡水・海水魚ともに使用可能
 M型容器 : 製品の小分け用・仕分け作業などに活躍
 K型容器 : 製品の小分け用・仕分け作業などに活躍
 その他 : MC型タンク・UL型タンク・MH型タンク・MDドラム・クリーンタンク・
 飼葉オケ・ホームローリー



スカットタンク



活魚タンク



K型容器

経営者から
みなさまへ

経営
哲学

事業
概要

事業展開
これまでの

知的資産
当社を支える

事業展開
これからの

会社
概要

問い合わせ
先

知的資産経営
報告書とは

土木関係

- ノッチタンク : 軽量で移動もできる濁水処理槽
 フLOAT : 軽く、強く、経済的。メンテナンスも容易で川・池・海などで威力を発揮
 保安用品 : ジャンボコーン・ガードロード・クッションドラム・アローサイン
 その他 : SLTタンク・スカットタンク・ホームローリー・クリーンタンク・MDドラム・M型容器・K型容器



アローサイン



ジャンボコーン



クッションドラム

住宅設備関係

- 埋設タンク : タンクを埋設するため、地上空間の有効活用が図れます
 雨水タンク : 庭への散水や洗車に、雨水の有効活用
 その他 : SLTタンク・スカットタンク・クリーンタンク・MC型タンク・UL型タンク・HT型タンク・MH型タンク・ホームローリー



雨水タンク



クリーンタンク



埋設タンク

食品加工関係

- ポリタル : 持つ、運ぶ、保存・画期的なアイディアによる密閉式容器
 コンテナ : 輸送の効率化とスペースの有効活用を目指した液体コンテナ
 その他 : M型容器・K型容器・コンテナタンク・KCドラム・MDドラム・クリーンタンク・SLTタンク・スカットタンク・MC型タンク・UL型タンク・MH型タンク・HT型タンク



ポリタル



M型容器



K型容器

デザイン

フラワーポット・タイムカプセル・イベントクーラー・スライダー



フラワーポット



タイムカプセル



イベントクーラー



スライダー

2) 特注品

お客様からのご計画、ご注文を頂き、新しく金型を起こしてお届けしています。

- ① 多品種、少量生産が可能
- ② 他の成形法に比べて金型費が安価
- ③ 複雑な形状や大型製品に適している
- ④ 肉厚が自由に変えられる
- ⑤ 大量生産前の試作品にも採用可能

家具、遊具、保安用機材、車両関連機材、配管継ぎ手類、各種タンクなど、様々な分野でお客様のニーズにお応えしています。



経営者から
みなさまへ

経営哲学

事業概要

これまでの
事業展開

当社の支える
知的資産

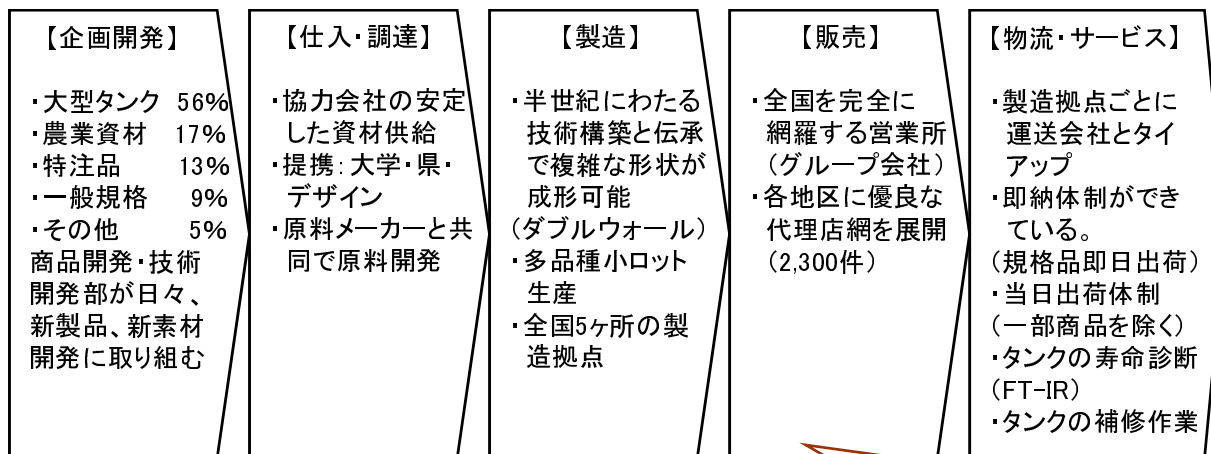
これからの
事業展開

会社概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

3) ビジネスフロー



【主たる販売ルート】

- ・薬品関連・ポンプ関連・設備関連 → 各種工場
- ・農業資材関連・土木資材関連 → 農業・漁業・土木
- ・食品資材 → 食品メーカー
- ・遊具関連 → 学校、公園、プール
- ・特注品 → 燃料タンク、家具、保安機材、カヌー、マネキン

4) 保有設備

- 炉式成形機 8台
- 直火式成形機 62台

合計 70台



5) 回転成形技術の基本情報

回転成形とは、粉末ポリエチレンを原料としてこれを熔融成形することです。そのメリットとしては、

1. 多品種小ロット製品を短い開発期間でリーズナブルなコストで作れる成形法
2. 自由度の高いデザイン性豊かな製品が作れる
3. コーナーや稜線部分は肉厚になり、ブロー成形とは正反対の特徴で構造強度面で有利
4. 金型費がブロー成形や射出成形品より安くできる
5. 多層化による高機能化が図れる
6. ネジ類や補強パーツのインサート成形が可能
7. 超大型タンクの成形ができる（～50,000m³）

(2) 事業をめぐる環境

1) 標的市場の特徴

- ・当社が属する業界：樹脂成形業界（回転成形）
（特徴：回転成形は国内での認知度は低い、海外ではメジャーな製法として認知されています。多品種小ロット生産が可能であり、大きな可能性があります。）
- ・市場規模：国内市場100億円（樹脂使用量：国内全体8,000t）
- ・市場の成長性：環境にやさしい素材を使用しているため、他素材からの代替需要としてのニーズが増加しています。
- ・当社のシェア：国内約40%（3,000 t）
- ・当社の取り組み：①回転成形を幅広く知っていただくための活動を行っています。
（工場見学、ショールーム、ホームページなど）
②ポリエチレンタンク協議会に所属し、新しい分野への進出。

2) 当社を取り巻く外部環境

【機会】

- ①**回転成形の競合メーカーの少なさ**
国内10数社。うち大型製品関係は2社のみ。
- ②**FRP、金属市場の代替（FRP市場規模：生産高30万t以上）**
ポリエチレンタンクの認知度が低いため、回転成形のPR（ショールーム）により市場拡大のチャンスが大いにある。
- ③**環境に優しい素材（リサイクル可能な素材）**
ポリエチレンはリサイクル可能なため、リサイクル業者により二次加工され、様々な商品に生まれ変わっている。
（再生ペレット・枕木・ベンチ・杭・フェンス・タイヤ止め・再生タンク 他）

【脅威】

- ①**市況に左右されやすい原材料価格**
原材料価格が原油市場に影響を受けやすい。
先行きの予測がつきにくい。
- ②**農林・水産業の苦境**
日本における第一次産業の低迷。
（輸入品の増加、従事者の高齢化、人口減社会など）
- ③**回転成形メーカー（業界）の知名度が低い**
回転成形のPR活動が不足している。（工業会活動が弱い）
大量生産が難しいため、大企業が存在していない。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

事業概要

これまでの
事業展開

当社を支える
知的資産

これからの
事業展開

会社概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

4. これまでの事業展開

(1) これまでの事業の歩み

1) 第1期(1963年～1966年)

年 月	沿 革
1963年9月	資本金300万円、大阪市北区茶屋町に大阪水交株式会社を創設。 事業内容: 循環浄化装置・軟水装置・噴水装置の販売 主な物件: 広島平和記念公園大噴水・原爆ドーム前噴水 → Episode 1 奈良ドリームランド中央噴水 大阪(扇町・浜寺)公園のプール浄化装置 近畿地区の学校プール
1964年7月	粉末成形品(ポリエチレン製品)の販売開始。
1964年11月	ポリタル75Qを開発。 (木製樽の製作者が少なくなり、予想以上に評価を得る。)
1966年3月	回転成形のライセンス(定置式: エンゲル法(粉末成形の基本特許))の取得により、 ロックンロール(回転成形)機での成形を始める。 回転成形品を食品業界・化学業界に販路を広げる。

○ Episode 1

大阪水交株式会社は、大手水处理装置メーカーの販売店8社のうちの1つとして創業しました。

当時は循環浄化装置・軟水装置・噴水装置等の販売施工を主としていました。当時最大の施工物件が、現在も広島市の平和記念資料館の正面にある大噴水(祈りの泉)です。西日本最大の噴水として、広島銀行様が施工主として建立し、後に広島市へ寄贈されました。

現在の業種とは異なりますが、このような大きな仕事に携われたことは、全社員の誇りであり、会社を支える根幹となっています。



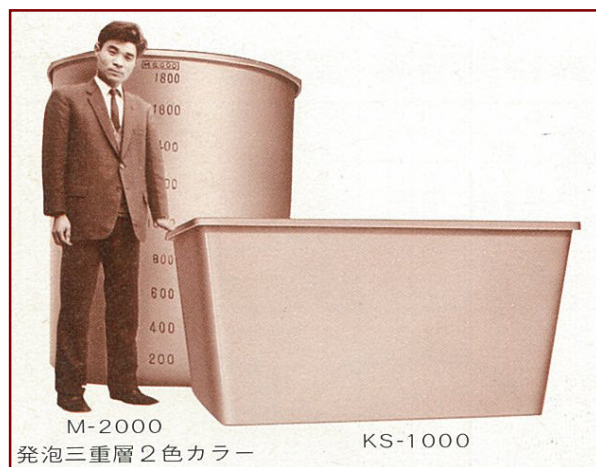
2) 第2期(1966年～1970年)

年 月	沿 革
1966年7月	尼崎市築地本町に本社移転。 本格的に回転成形品を製造販売開始(規格品の開発)。
1967年1月	プラスチック容器の成形、販売に転換。 尼崎市築地本町にエンゲルプロセスによる回転成形の尼崎工場を新設。 回転成形品(規格品)ラインナップの充実。 丸型製品(M60～M500)を中心に農業・化学薬品向けに販路を広げる。 これまで成形が困難であった角型製品を開発する(K70～K300)。→ Episode2
1968年	ポリドラムを開発し、水産・鍍金業界に販路を広げる。 三層成形(発砲入り)の成形方法を確立する(大型成形品の成形が可能になる。(3t・5t))。 圧着・融着の技術を得る。 K型・ドラム型の委託生産を始める。
1969年	大規模農業向け(農業散布用)にロータリータンク(LT300・LT500・LT1000・LT2000)を開発 樹脂メーカーとの取り組みを通じて、新たなポリエチレン樹脂の提供を受ける。 化学薬品向けに、大型タンク(MC2000・MC3000・MC5000・MC6000)を開発。
1970年	飼葉桶1型・2型を開発。 大型タンク(MC200・MC300)を追加開発。 水処理設備に用いる攪拌槽(MH200～MH500)を開発(水処理業界用)。

○ Episode2

これまでは成形が困難であった製品を開発する。

自社工場の建設と同時に回転成形製品のラインナップを増やし、樹脂成形品では珍しかった大型容器の製作、成形自体が困難であった、角型容器の製作をスタートし、農業・化学薬品用として販路を拡大する事ができ、業種転換の成功企業として、故 横山俊男会長がNHKに取り上げられ話題となりました。

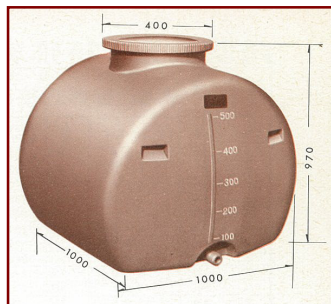


3) 第3期(1970年～1988年)

年 月	沿 革
1970年8月	滋賀県栗東市に栗東工場を新設(大型成形機据付け)。
1971年	国内最大級の大型タンク(MC20000)を開発。
1972年5月	東京営業所を開設。関東・甲信越地区の販売強化を図る。
1973年	ローリータンク、大型タンクの品揃えを充実。 LT→SLT(お客様の声を反映し、現行に近い形状にモデルチェンジ。)→ Episode3
1974年2月	第5回目増資、現資本金の4,800万円となる。 各製品のラインナップを急速に増強。
1975年	ULタンクを開発。 高剛性樹脂を採用し、大型タンクで補強枠を必要としない製品。
1978年	HTタンクを開発。 架台付完全液出しタイプ。

○ Episode3

当時主力となりつつあった、ローリータンク(LT)でしたが、お客様の声を次々と反映し、より高付加価値、のスーパーローリータンク(SLT)にモデルチェンジしました。
当時のコンセプトは現在も引き継がれ、多くのお客様の支持を頂き現在も改良を続けながら、主力商品として活躍しています。



経営者から
みなさまへ

経営哲学

事業概要

事業展開
これまでの

知的資産
当社を支える

事業展開
これからの

会社概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

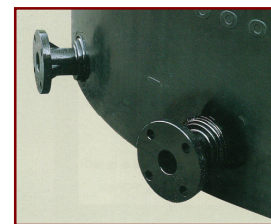
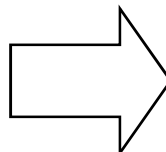
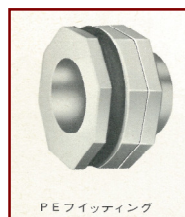
4) 第4期(1989年～1999年)

年 月	沿 革
1989年1月	熊本市に熊本工場・九州営業所を開設。九州地区の販売強化を図る。
1990年	融着フランジを解説。→ Episode4 ヒートフュージョンシステムを応用し、業界初の熱加工フランジを製品化。
1994年6月	熊本県大津町に熊本工場・九州営業所を移転し、設備を増強。
1995年1月	阪神淡路大震災。→ Episode5 尼崎工場が被災。
1997年4月	熊本工場に国内最大のオリジナル超大型炉式成形機を開発し設置。 超大型タンクを開発(MC30000)。
1998年2月	滋賀県甲賀市に水口工場新設(現 滋賀第一工場)。 大型タンクを主体とした供給体制を図る。
1999年4月	超大型タンクの需要増加に伴い熊本工場増設。 超大型タンクシリーズ化(MC40000)。

○ Episode4

化学薬品に非常に強いポリエチレンタンクでしたが、ノズル取付けを施す際に、穴あけ箇所はパッキンによるシールが必要でした。ゴム製のパッキンは、内溶液によっては劣化し交換が必要になるケースが多々あり、薬品タンクとして躍進を始めていたポリエチレンタンクの唯一の欠点でした。

そこで、このパッキンを無くすことは出来ないかと社内で研究開発を行った結果、業界初の融着ノズルシステムを確立しました。
これにより、他社に先駆けパッキンレス・メンテナンスフリーのポリエチレンタンクを製品化することが出来ました。



○ Episode5

関西地区に大きな被害をもたらした阪神淡路大震災。

尼崎工場は建物の全壊は免れましたが、液状化現象が激しく稼動できない状態に陥りました。

この震災を機に尼崎市は大規模な区画整理を行い、尼崎工場・本社事務所は現在の西向島町に移転しました。

スイコーグループでは影響を受けなかった全国に展開する製造拠点が被災した地元自治体に対して、給水容器、ボランティア等、様々な形で早期復旧に携わりました。

5) 第5期(2000年～)

年 月	沿 革
2000年1月	大阪水交株式会社からスイコー株式会社に社名変更。 → Episode6
2000年7月	ISO9001取得。
2001年5月	本社・尼崎工場並びに配送センターを統合。尼崎市西向島町に新社屋・工場完成。
2005年4月	名古屋営業所を開設。中京、北陸地区の販売強化を図る。
2006年6月	滋賀工場を増設。滋賀第二工場として旧栗東工場を統合。
2006年8月	日本最大のポリエチレンタンク(MC50000)を開発する。
2007年7月	ISO14001取得。
2008年2月	社章を変更 → Episode7
2008年9月	滋賀工場・熊本工場にショールームを開設。 → Episode8

○ Episode6／7

21世紀を迎えるにあたり、関西から全国へとの想いを込め“大阪水交”から“スイコー”に社名変更しました。

ロゴマークにはスイコーのイメージカラーであるオレンジとスカイブルーを配色し、太陽の中をスイコーのSの字に水が流れる様子を表現しました。



経営者から
みなさまへ

経営
哲学

事業
概要

事業展開
これまでの

知的資産
当社を支える

事業展開
これからの

会社
概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

○ Episode8

回転成形のパイオニア企業として皆様に支えられ、45年が経ちました。耐蝕タンクや薬注タンク等、一部分野では回転成形の認知度も向上しました。しかしながら未だ皆様が良く知っている成形法とはなっていません。

そこで皆様にもっと回転成形を知って頂こうと「ショールーム」をオープンしました。「ショールーム」は滋賀工場及び熊本工場、2拠点に隣接しております。工場棟で実際の成形をご覧いただいて、ショールームで再確認していただけるという回転成形を知る上では切っても切り離せない存在です。

“こんなものまで創れるの”という新鮮な発見をお持ち帰り頂いています。



○ 水交会

水交会という名は現在も残り、福利厚生の一環として社員により社員の為に運営されています。

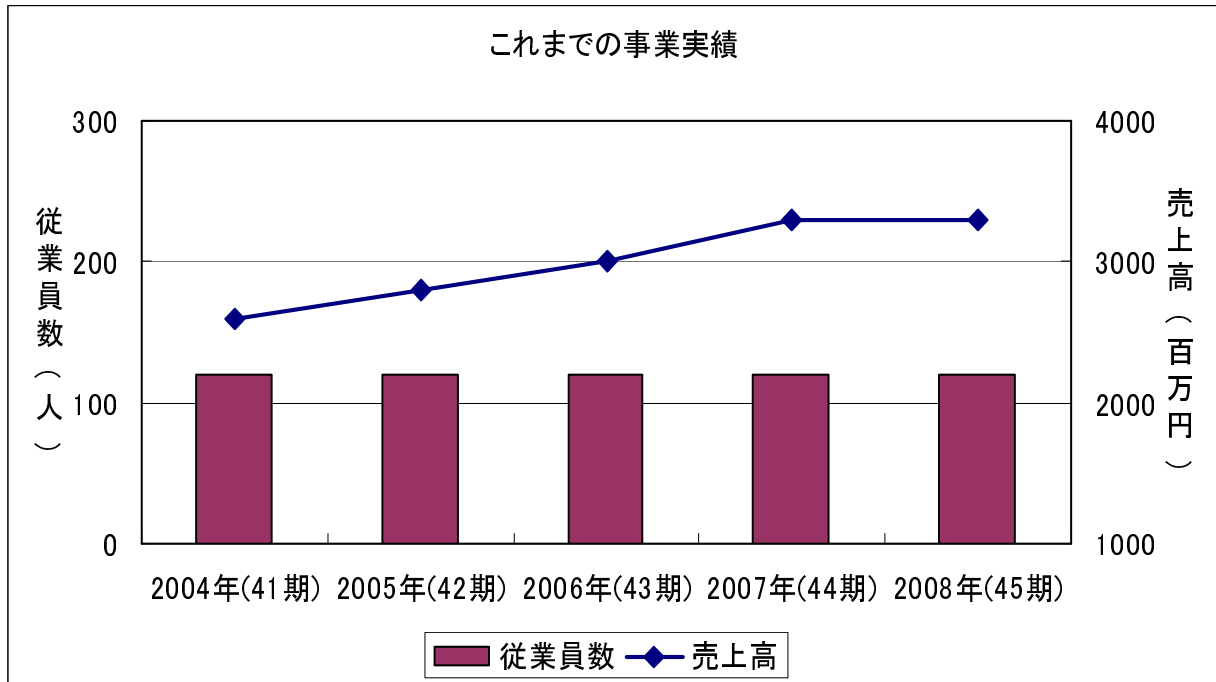
40周年には兵庫県の淡路島に全社員が集合し、親睦を深めました。45周年には社員100名でオーストラリアのケアンズにて盛大な慰安旅行が開催されました。

このように全社員が一堂に会する機会が設けられ、社員一同が結束を固められています。団結力こそが我々スイコーの財産です。



(2)これまでの事業実績

1)売上高、従業員数の推移



熊本工場



滋賀第一工場

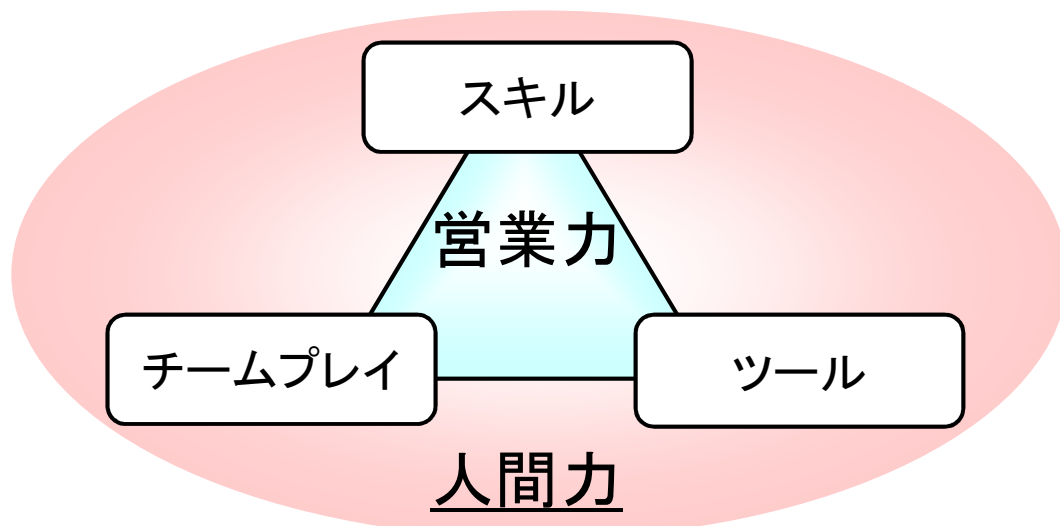


滋賀第二工場

5. 当社を支える知的資産＝人間力

※人間力(にんげんりょく)とは、学力、スキルの上に依存しない、人間としての総合的な能力。

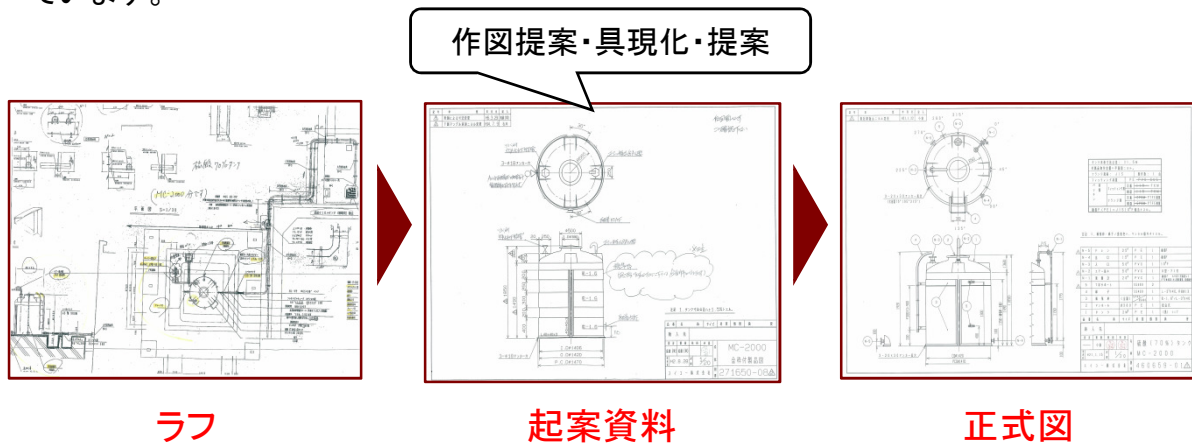
知的資産－①「営業の人間力」



1) スキル(営業に求める行動)

- ・定期訪問: 協調、協力関係(協業)による関係性の強化、情報収集、情報提供(提案)
(行動計画表の作成(月次～週次への展開)→報告→ミーティング)
- ・同行営業: 実際に商品をお使いいただくお客様(ユーザー)の生の声を聴く、製品の
詳細な説明、仕様の詳細な打ち合わせ
(46期2008年から数値化している)

当社の営業は、ユーザーのイメージの具現化、要求に見合う商品とするための提案
ができなければならない。そのためには、作図能力、製造・技術の経験が必須となっ
ています。



2) チームプレイ

社内におけるチームプレイ(お客様の安心、信頼、満足)

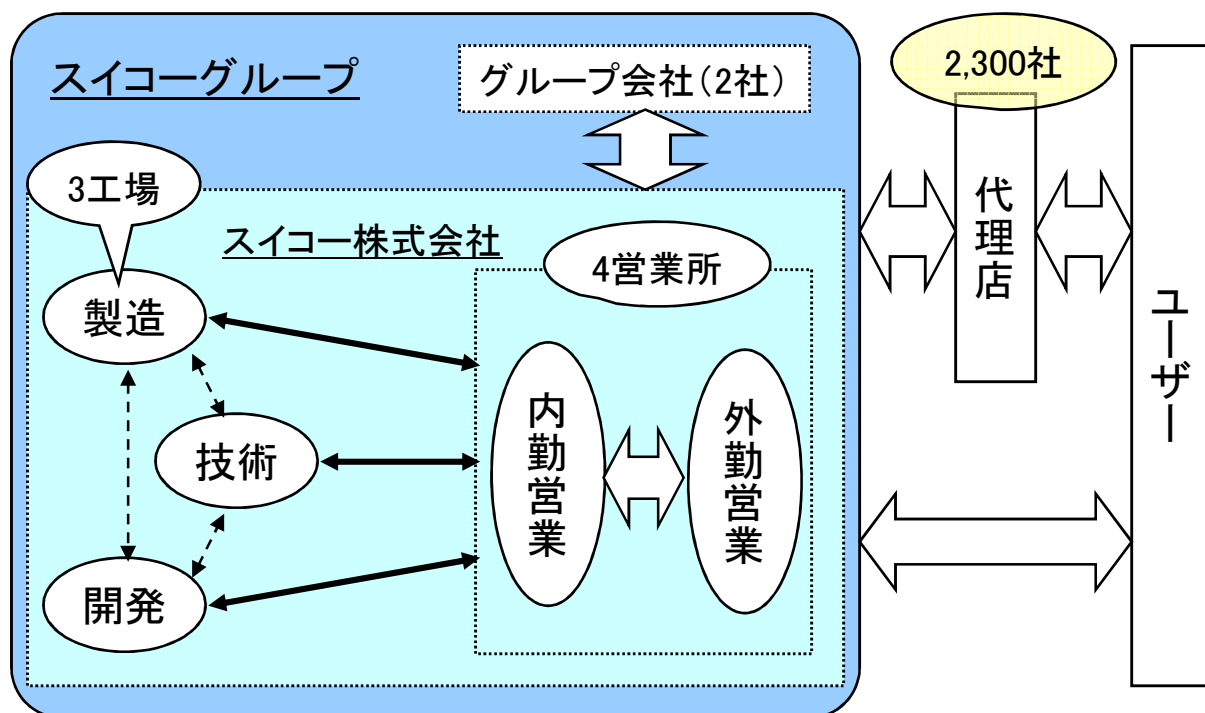
・内勤営業→外勤営業とマンツーマンでユーザーサポート、お問い合わせに対するレスポンスのスピードアップ

・製造→製品の安定供給

・技術→新技術の開発、設計、製図、計算書(耐震、強度、コストなど)

・開発→新商品開発、新ジャンル開拓

・グループ会社(2社)→全国を網羅



経営者から
みなさまへ

経営哲学

事業概要

これまでの
事業展開

当社を支える
知的資産

これからの
事業展開

会社概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

知的資産－②「製造、技術、開発の人間力」

1) 独自ノウハウの構築

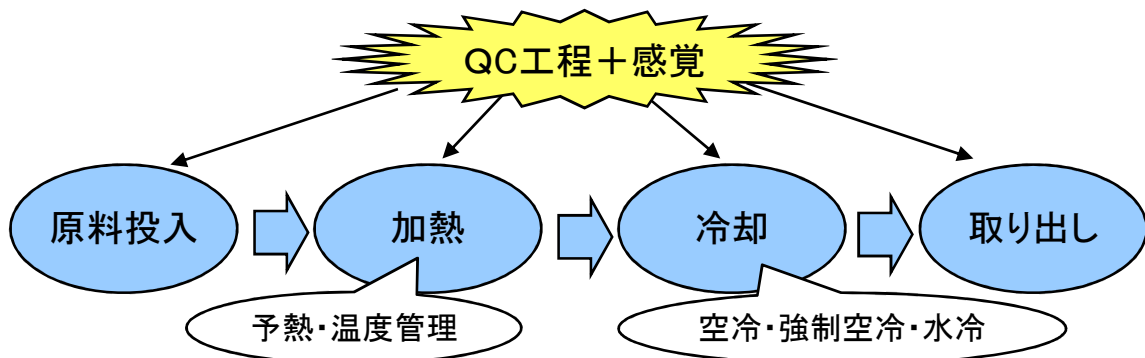
当社は回転成形のパイオニア企業として、半世紀余りに亘り回転成形の独自ノウハウを蓄積してきました。このノウハウは成形技術マニュアルなどに文章化されたものだけでなく、熟練者の作業をビデオで撮影するとともに、熟練者と若手のマンツーマンで繰り返される成形作業を通じて、手から手へ技を伝えています。そうしたノウハウの構築と承継には当社の人間力が大きく影響を与えています。

また、多能工化や最新成形機の導入によりコストダウンを図り、5S活動を通じた工場環境の整備等で、品質の高い製品を提供しています。

成形技術

回転成形は、成形者の技術なしでは成り立たない成形方法です。

○ 回転成形のプロセス

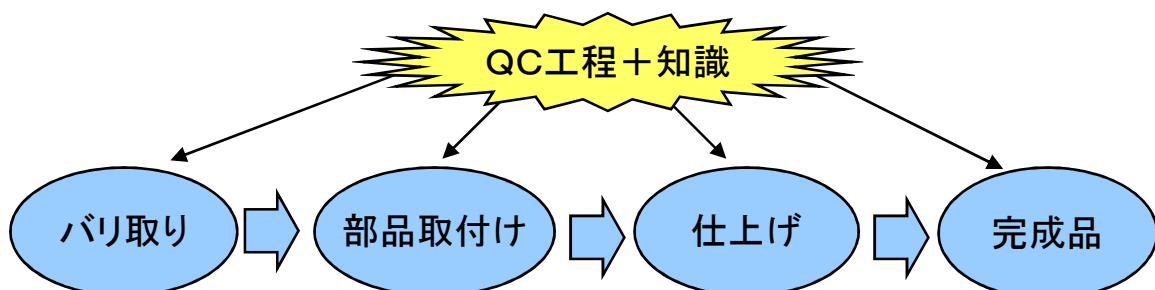


※環境変化(気温・湿度など)により、QC工程表の基準をもとに、微妙な調整を行う必要があります。最後は技術者の目視によって確認することが必要です。

加工技術

加工図面を理解し、部品の知識などが必要な技術職です。

○ 加工のプロセス

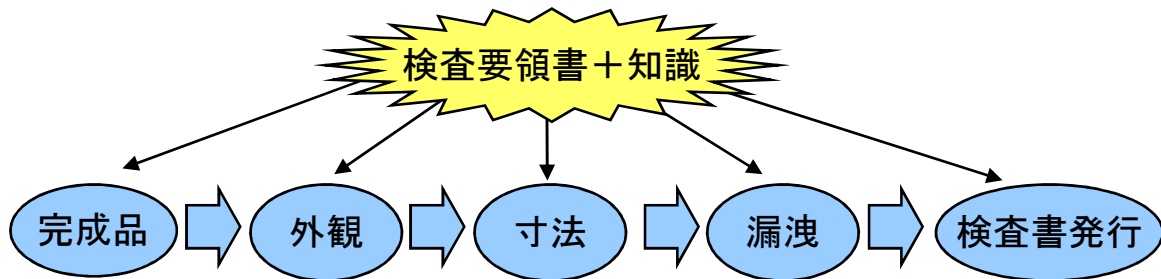


※加工内容によっては、融着機の操作、ポリエチレン溶接などの特殊技術が必要となり、マトリックスで認定を受けた技術者が施工を行います。

品質検査

製品検査は製品ごとにISOで定められた基準に基づいて行われます。

○ 品質検査フロー



※品質検査責任者は工場ごとに配置されており、社内でも比較的経験豊富な技術者からマトリックスにより選任し、測定機器の管理、日々検査に努めています。お客様へ出荷する製品の品質を管理する、重要な部署となります。

製造設備

技術開発部を中心として、新規成形機の導入や新技術を取り入れた融着技術による効率化、品質向上も進めています。

- ① 炉式成形機（熱効率アップ・技術介入度の低減・多面成形・複雑な形状に対応・均等な肉厚の管理）
- ② オイルジャケット・ジャイロ成形機
- ③ 大口径融着機、アンカー融着機

2) 他社との連携

- ① 新素材の開発には大手樹脂メーカーの協力により、回転成形に適した高品質・高物性樹脂を開発しています。
（メタロセンハイデンポリエチレン、ポリプロピレン、ポリカーボネートなど）
- ② 回転成形の重要な要素に金型製作がありますが、金型メーカーと協力関係を結ぶことで商品の高品質化、コストダウンに結び付けています。
- ③ 工場ごとに協力会社（鉄工、管材、副資材、運送、工事など）と契約することで、安定供給、即納体制を維持しています。
（品質を維持・向上するために、ISO品質マネジメントシステムで定める購買規定により品質管理体制の調査、品質監査及び経営能力の調査を実施しています。）

経営者から
みなさまへ

経営哲学

事業概要

これまでの
事業展開

知的資産
当社を支える

これからの
事業展開

会社概要

問い合わせ先

知的資産経営
報告書とは

3)新製品開発に特化した独立部署

商品開発部は2003年に新設され、技術開発部開発グループと連携し、新製品開発のスピードアップにつなげています。

新製品

- イベント用クーラー ○ 保冷ボックス ○ スライダー ○ 反応槽
- ノッチタンク ○ スツール ○ 燃料タンク

※新分野の開拓を進め、上記のように続々と新商品を開発しています。

4)産学連携による独創性のあるモノづくり

大学との連携でカヌーやインテリア商品など、デザイン性の高い商品を共同開発しました。また、大学での回転成形の講習会に協力するなど、産学連携を積極的に活用しています。

○湘南工科大学と共同開発



ユニバーサルカヌー

○社外デザイナーによるデザイン作品



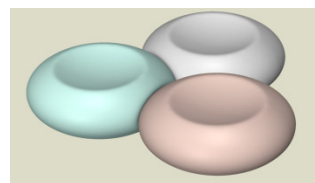
スツール(PLOP)



フラワーポット(Aura)



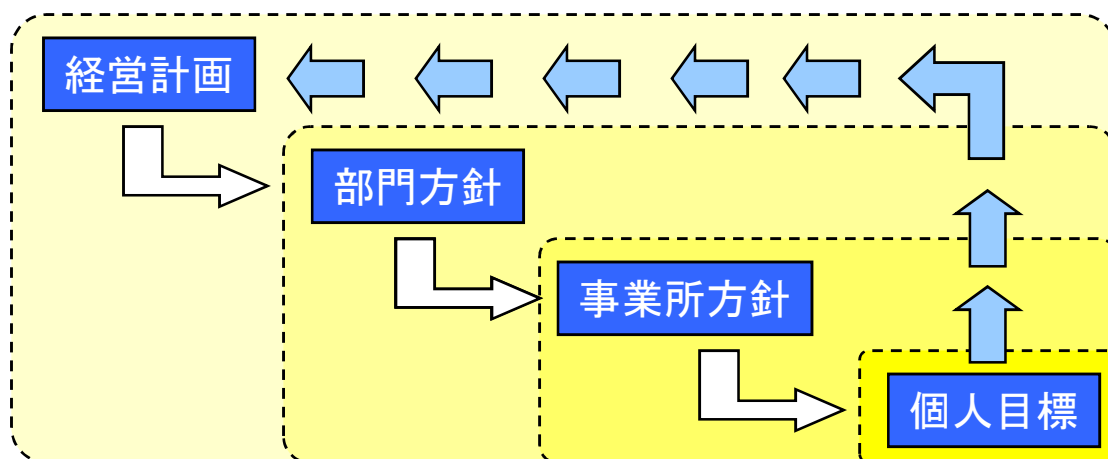
フラワーポット(Coccolo)



知的資産－③「人間力の教育」

1)社長から全社員まで共通のベクトル

① 経営計画から個人目標までの一貫性



② 独自の人事考課制度

- ・ 年2回の目標面接
- ・ 社長・役員とFace To Faceでの面談を実施。

2) ISOに基づく教育

品質マネジメントシステム、環境マネジメントシステムを基本として、正確な評価を行うため、マトリックススペースの教育訓練を行っています。

加工作業票 マトリックス表

【点検の項目】

- ①：点検の下でできる
- ②：点検できる
- ③：点検よくできる
- ④：点検に改善よくできる

- 4. 点検よくできる
- 5. 点検よくできる
- 6. 点検に改善よくできる

加工工程
加工工程

作業内容	作業レベル	4点検		5点検		6点検		7点検		8点検	
		点検	点検	点検	点検	点検	点検	点検	点検	点検	点検
【加工・組立作業】											
組立品の点検	①										
組立品の検点	②										
組立品の検点	③										
点検点検	④										
点検点検	⑤										
点検点検	⑥										
点検点検	⑦										
点検点検	⑧										
点検点検	⑨										
点検点検	⑩										
点検点検	⑪										
点検点検	⑫										
点検点検	⑬										
点検点検	⑭										
点検点検	⑮										
点検点検	⑯										
点検点検	⑰										
点検点検	⑱										
点検点検	⑲										
点検点検	⑳										
点検点検	㉑										
点検点検	㉒										
点検点検	㉓										
点検点検	㉔										
点検点検	㉕										
点検点検	㉖										
点検点検	㉗										
点検点検	㉘										
点検点検	㉙										
点検点検	㉚										
点検点検	㉛										
点検点検	㉜										
点検点検	㉝										
点検点検	㉞										
点検点検	㉟										
点検点検	㊱										
点検点検	㊲										
点検点検	㊳										
点検点検	㊴										
点検点検	㊵										
点検点検	㊶										
点検点検	㊷										
点検点検	㊸										
点検点検	㊹										
点検点検	㊺										
点検点検	㊻										
点検点検	㊼										
点検点検	㊽										
点検点検	㊾										
点検点検	㊿										
点検点検	㋀										
点検点検	㋁										
点検点検	㋂										
点検点検	㋃										
点検点検	㋄										
点検点検	㋅										
点検点検	㋆										
点検点検	㋇										
点検点検	㋈										
点検点検	㋉										
点検点検	㋊										
点検点検	㋋										
点検点検	㋌										
点検点検	㋍										
点検点検	㋎										
点検点検	㋏										
点検点検	㋐										
点検点検	㋑										
点検点検	㋒										
点検点検	㋓										
点検点検	㋔										
点検点検	㋕										
点検点検	㋖										
点検点検	㋗										
点検点検	㋘										
点検点検	㋙										
点検点検	㋚										
点検点検	㋛										
点検点検	㋜										
点検点検	㋝										
点検点検	㋞										
点検点検	㋟										
点検点検	㋠										
点検点検	㋡										
点検点検	㋢										
点検点検	㋣										
点検点検	㋤										
点検点検	㋥										
点検点検	㋦										
点検点検	㋧										
点検点検	㋨										
点検点検	㋩										
点検点検	㋪										
点検点検	㋫										
点検点検	㋬										
点検点検	㋭										
点検点検	㋮										
点検点検	㋯										
点検点検	㋰										
点検点検	㋱										
点検点検	㋲										
点検点検	㋳										
点検点検	㋴										
点検点検	㋵										
点検点検	㋶										
点検点検	㋷										
点検点検	㋸										
点検点検	㋹										
点検点検	㋺										
点検点検	㋻										
点検点検	㋼										
点検点検	㋽										
点検点検	㋾										
点検点検	㋿										
点検点検	㌀										
点検点検	㌁										
点検点検	㌂										
点検点検	㌃										
点検点検	㌄										
点検点検	㌅										
点検点検	㌆										
点検点検	㌇										
点検点検	㌈										
点検点検	㌉										
点検点検	㌊										
点検点検	㌋										
点検点検	㌌										
点検点検	㌍										
点検点検	㌎										
点検点検	㌏										
点検点検	㌐										
点検点検	㌑										
点検点検	㌒										
点検点検	㌓										
点検点検	㌔										
点検点検	㌕										
点検点検	㌖										
点検点検	㌗										
点検点検	㌘										
点検点検	㌙										
点検点検	㌚										
点検点検	㌛										
点検点検	㌜										
点検点検	㌝										
点検点検	㌞										
点検点検	㌟										
点検点検	㌠										
点検点検	㌡										
点検点検	㌢										
点検点検	㌣										
点検点検	㌤										
点検点検	㌥										
点検点検	㌦										
点検点検	㌧										
点検点検	㌨										
点検点検	㌩										
点検点検	㌪										
点検点検	㌫										
点検点検	㌬										
点検点検	㌭										
点検点検	㌮										
点検点検	㌯										
点検点検	㌰										
点検点検	㌱										
点検点検	㌲										
点検点検	㌳										
点検点検	㌴										
点検点検	㌵										
点検点検	㌶										
点検点検	㌷										
点検点検	㌸										
点検点検	㌹										
点検点検	㌺										
点検点検	㌻										
点検点検	㌼										
点検点検	㌽										
点検点検	㌾										
点検点検	㌿										
点検点検	㍀										
点検点検	㍁										
点検点検	㍂										
点検点検	㍃										
点検点検	㍄										
点検点検	㍅										
点検点検	㍆										

3) 各種研修・講習制度

習得すべき技能や知識に関わる研修、講習の他、個人目標に掲げた身に付けたい技能、知識に対する研修や講習にも、会社が積極的にバックアップしています。

① 内部研修

【技能】

成形研修、加工研修、仕上げ・出荷研修

【知識】

作図研修、技術研修、新商品研修

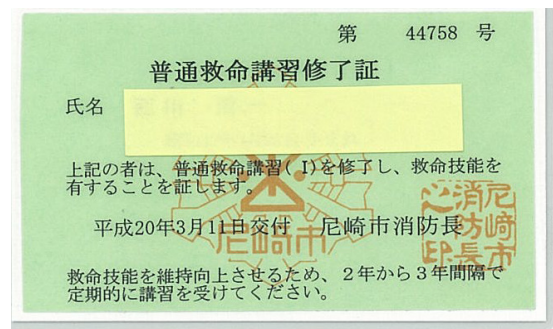
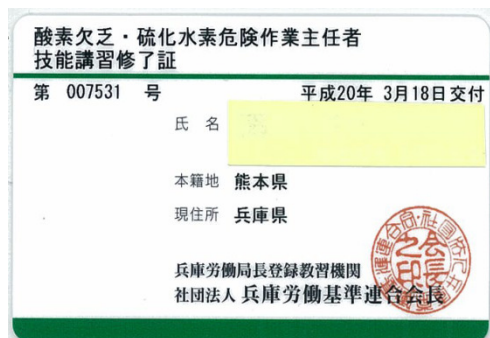
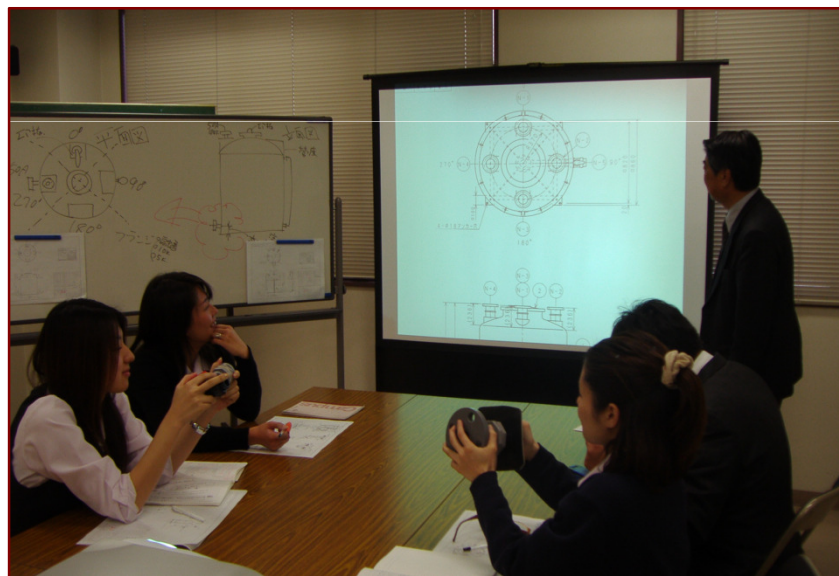
② 外部研修

【技能】

玉掛け技能、床上操作式クレーン運転技能、酸素欠乏、フォークリフト運転技能、危険物取扱者乙種、臭気判定士、硫化水素危険作業主任者、毒劇物取扱責任者

【知識】

環境社会検定、ビジネス実務法務検定、販売士検定、CAD利用技術者検定、特別管理産業廃棄物管理責任者、営業力強化セミナー など



6. これからの事業展開

(1) 今後の経営方針・ビジョン

○ 第2次中期5ヵ年経営計画より

- ① お客様満足度のさらなる向上に努めている。
- ② 仕事の重点化と達成度強化を図り、活力ある企業に成長している。
- ③ 環境保全に努めCO₂ 排出を制限し、社会的責任を果たしている。
- ④ 回転成形の認知度が高まっている。

(2) 今後の取り組み

- ① スイコーグループの機能を活かして、お客様満足度を高める。
 - ② 仕事の重点化と達成度強化を図り、活力ある企業に成長している。
 - ③ 環境保全に努めCO₂ 排出を制限し、社会的責任を果たしている。
 - ④ 回転成形のPRに努め、地位の向上を図る。
- ※ ショールーム案内・工場見学を推進する事で、回転成形の認知度を上げ、お客様の意見を反映した商品開発を進める。

(3) 知的資産活用マップ → 詳細非公開

(4) 今後の事業計画 → 詳細非公開

経営者から
みなさまへ

経営
哲学

事業
概要

これまでの
事業展開

知的資産
当社を支える

事業展開
これからの

会社
概要

問い合わせ
先

知的資産経営
報告書とは

7. 会社概要		経営者から みなさまへ
会社名	スイコー株式会社	経営 哲学
本社所在地	〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町86番地	
会社設立	昭和38年9月5日	事業 概要
資本金	4,800万円	
代表者	代表取締役社長 横山 隆人	事業 展開
社員数	120名（平成20年8月 現在）	
売上高	33億円（平成20年度）	知 的 資 産
事業内容	回転成形法によるポリエチレン製の各種容器の製造販売。	
納入先	農林酪農水産関係、食品加工関係、化学薬品染色関係、プラント関係等 （合計約800社。）	事業 展開
仕入先	三井化学株式会社、住友商事ケミカル株式会社、岩谷産業株式会社、 旭有機材工業株式会社等	
取引銀行	三菱東京UFJ銀行、近畿大阪銀行	知 的 資 産 経 営
関連会社	東北スイコー株式会社（昭和53年11月設立）	
	北海道スイコー株式会社（昭和49年7月設立）	
8. 問い合わせ先		会社概要
スイコー株式会社 担当部署：総務部 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町86番地 TEL：06-6412-5855 FAX：06-6414-2284 URL：http://www.e-suiko.co.jp		問 い 合 わ せ 先
		報 告 書 と は

9. 知的資産経営報告書とは

(1) 知的資産経営報告書とは

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

「知的資産経営報告書」とは目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から2005（平成17）年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しております。

(2) 本書ご利用上のご注意

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略および事業計画ならびに付帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来にわたり当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には本報告書の内容が、将来実施または実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、当社が将来にわたって保証するものではないことを十分にご了承願います。

(3) 作成支援・監修専門家

本知的資産経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上させる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

- 兵庫県中小企業団体中央会 地域力連携拠点「しっかいや中央会」
- 中小企業診断士 林 浩史（はやし ひろし）氏（登録番号402842）

経営者から
みなさまへ

経営
哲学

事業
概要

事業
展開

知的
資産

事業
展開

会社
概要

問
い
合
わ
せ
先

知的
資産
経営
報告
書
と
は